

補足資料(丹波篠山市での竹に関する課題とあるべき姿)

○丹波篠山市では竹に関して次のような課題があります。

- ・高齢化等により竹林や里山を整備する人員が減少しています。(担い手がいない)
- ・過去と比べて竹林の総面積が増えている一方、管理の手が回らず放置竹林が着実に拡大しています。
※ただし、丹波篠山市が全国的にみて特別に竹林拡大の被害で問題になっているわけではありません。

表 1997年と2016年の竹林変化の調査結果

年	竹林の数	竹林の総面積	竹林1箇所の平均面積
1997	約2,000箇所	約186ha	約970m ²
2016	約2,000箇所 (数はあまり変わっていない)	約230ha (約1.3倍に拡大)	約1,135m ² (一つ一つの竹林が拡大している)

※放置竹林の問題※

- ・枯れた竹が取り除かれていないため、光も入らずうっそうとしている。
 - ・密集した竹により人が入れないため、整備ができず、タケノコが生えてきても野生動物の餌にしかならない。(=獣害被害の拡大)
 - ・周囲にも竹林が拡大し、もともと竹林でなかった場所にも竹が侵入する。
- など

○竹の課題が顕在化している地域のあるべき姿として、次のように考えています。

- ・地域が主導となり竹林整備や竹資源の有効活用を積極的に実施する。
- ・景観意識の向上や地域産業の発展により地域活性化を図る。
(理想としては人員不足や経費負担等の高いハードルが機械の貸出事業などにより解消できればよいと考えます。)

○提供いただいた竹チップは、次のような活用を地域で推進したいと考えています。

- ・堆肥化や木質バイオマス燃料としての活用
- ・チップのみではなく、竹炭をつくるなど竹本体を資源とした活用